

0 1- 0 A/W
World **hair**
in **J**apan
TECHNICAL
GUIDE

遊び心とアクセントのハイライトカラー
自由で手入れの楽なスパイラルパーマを取り入れたニューフォーマル

Text Download



Image Movie



D's



D's

2021-2022 A/W

【ネーミング】

D'S (ディーズ)

ディーズとは、シンプルで気品が漂う男性らしさ「D」Dandyism (ダンディズム)と女性らしさ「S」Sexy (セクシー)の略語。今季トレンドポジションの主流である「モダン」をベースに都会的な要素や知的さをイメージし、原点回帰からの発信として「ニューフォーマル」なヘアスタイルを表現した。



【コンセプト】

2021-2022 A/W のトレンドキーワードである「リラックス フォーマル」を軸にリモートワーク時のオン・オフの手入れのしやすさを意識。そして、洗練されたダンディズム & セクシーな雰囲気のスパイラル パーマ、ハイライトのカラーリングを効果的に取り入れ、遊び心が溢れるスタイル。

ウィメンズに関しては、ジェンダーレスとしてショートの中でもクールな部分とトレンドの要素「エスニック」な雰囲気を織り交ぜ、「知的で洗練された女性」をイメージした。



【ターゲット】

年齢層は20～40代。

今季のトレンドキーワード

「フォーマル」が基本。

都会的で洗練された雰囲気、前向きなファッションやヘアスタイルでオシャレを楽しみたい人たち。



World hair in Japan

ヘアスタイルに込めた想い

「クリエイティブ」は「情報」から生まれる

2021年より「全理連ニューヘア」は「World hair in japan」へと名称が変わり、春夏（S/S）と秋冬（A/W）の年2回の発表となりました。

「新しいヘアスタイル」をクリエイティブする上で、世の中の大きな流れ（＝社会情勢やトレンドポジション、ファッション、カラーなど）は、必ず読み解かなければいけない情報です。

その年の春夏と秋冬の年2回発行してる「NEXT」のトレンド情報を理解し、少し先を見据えたひとつの「新しいヘアスタイル」＝「革新的なプロダクト（商品）」を生み出していく。

これは学習と応用の集大成であり、「NEXT」が本来、目指していた形と言い換えることもできます。

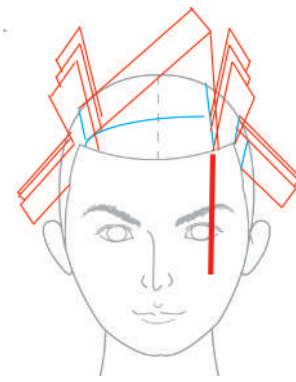
これからも「NEXT」の情報や知識を最大限に活用し、「World hair in Japan」を通じ、お客様に喜んで頂くことが理容師としての使命の一つだと考えます。



CUT

パートが入った前下がりのレイヤーボブで2セクション（ツープロック）スタイルです。

2セクション下部を「Dセクション」。上部を「Sセクション」とし、“上品な男性らしさ”と“女性的なセクシーさ”を融合させたカットラインになります。



Cut Line



Back



Front



Side



Front



Back



Top



Side



ブロッキング EEPとO字パートの交点を頂点とし、前下がりのライン。後ろは後頭突起に向かうブロッキングを行います。この時に下部を「Dセクション」。上部を「Sセクション」とします。



Dセクションのカット サイドからカットしていきます。モデルの毛質などに合わせ、セニングカット・シザーズでのカットを行います。



ネックライン 耳回りは男性らしくシャープでフォーマルなイメージ。バックはモデルのイメージに合わせ、男性らしさが演出される上品な刈上げから少し長めまででクラシックフォーマルに仕上がるようにカットします。



Sセクションのブロッキング 左6：4パートでブロッキングをします。次にパート生え際3cm奥から左右隅部に向かってブロッキングをします。



Sセクションのカット Sセクションサイドからカットをします。EEPを起点とした前のDセクションラインに合わせ、前下がりのラインで床面に対し、平行くらいに引き出してカットをします。



⑤のガイドに合わせ、集中カットをします。



EEPを起点とした後ろを⑤をガイドにし、⑥同様にカットします。



Sセクション フロントのカット フロント6：4の頂点をモデルの鼻尖（びせん・鼻の頭）を目安にカットをします。



⑧をガイドに⑤のサイドに繋がるようにカットをします。この時に6：4の頂点が短く隅部に行くに従って長くなるイメージにして下さい。



Sセクション トップのカット フロント3cm奥の部分ガイドにし、6：4パートライン上にガイドを作り、Aラインになるイメージでラウンドカットをします。



サイド・バックのコーナーのチェックカットを行います。仕上がりを意識しながら、フィニッシュに向かいます。



【量感の調整】 全体に中間セニングをし、量感の調整を行います。



「D's パーマ」は全体的にダンディズム & セクシーで大人っぽい雰囲気演出するため、毛束感は螺旋状にします。毛先はよりナチュラルなイメージで仕上がる毛先逃しのスパイラルパーマを主体にワインディングします。



スパイラルパーマは髪の長さ・毛量・毛束のひねりの強弱で雰囲気や質感を大きく変えることができます。尚且つ縦巻きのため、オーバーボリュームになり難い特徴があります。ウェーブを緩く自然に表現する場合はスライス大きめに取ります。ツイスト風に強く細かく表現する場合はスライス細かめでひねりを加え、巻き込みます。

「D's パーマ」はスライスを三角形に巻き込むため、毛束の真ん中が緩め。三角コーナーが強めに表現され、より自然にウェーブ感が出ます。

パーマ

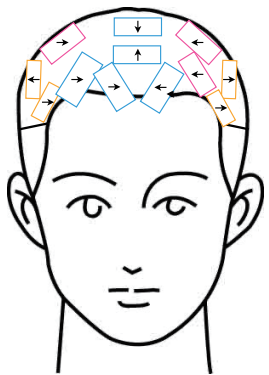
Peam

【ロッドの配列】

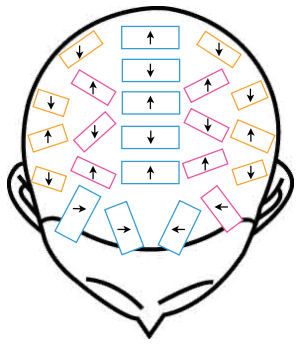
- ・ **ピンク** (15mm) & **オレンジ** (13mm) はスパイラルパーマ (毛先逃し)。
- ・ **ブルー** (17mm) は平巻き (根元まで巻く)。
- ・ 基本的に前後左右交互に巻く。
- ・ フロント前下がリゾーンは 17mm。

【スライスの位置】

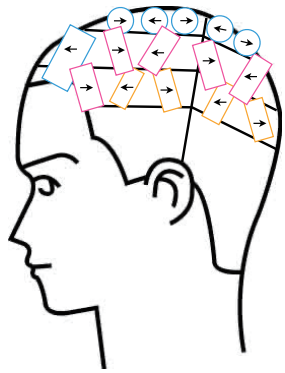
- ・ スパイラル部分のスライスは三角スライスが基本 (スライスにパーマの強弱を表現するためです)。
- ・ トップの部分はボリュームを付けるため、交互に平巻き。



Front



Top



Side



Front



EEP のサイドラインからセンターに向けて下段部から方向性をクロスさせ、巻き込みます。この部分のボリュームはあまり出さず、毛束の中間まで巻き込みます。



中段も同じくセンターに向けてロッドの方向をクロスさせ、毛束の毛先部分を 1cm くらい逃しながら、交互に中間まで巻き込みます。



EEP のサイドラインからフロントに向けて下段部から方向性を交互に巻き込みます。カットラインが前下がりのため、フロント側のスライスは厚めに取り、ウェーブにナチュラル感を表現します。



フロントの髪際突起部から髪際隅部の部分のヘビーサイド側は大きめのロッド。ライトサイド側は小さめのロッドで巻きます。髪の長さが違う分だけロッドの大きさを変えます。



トップ部分は自然なボリューム感が欲しいため、平巻きで根元までロッドを巻き込みます。トップは最も動きが出やすいため、方向性を交互に巻き、アクティブ感を表現します。



フロントはパート部分で分けるようにスパイラル巻きでロッドを外側に向かうように配列します。自然なカール感をイメージし、毛先逃しで巻き込みます。

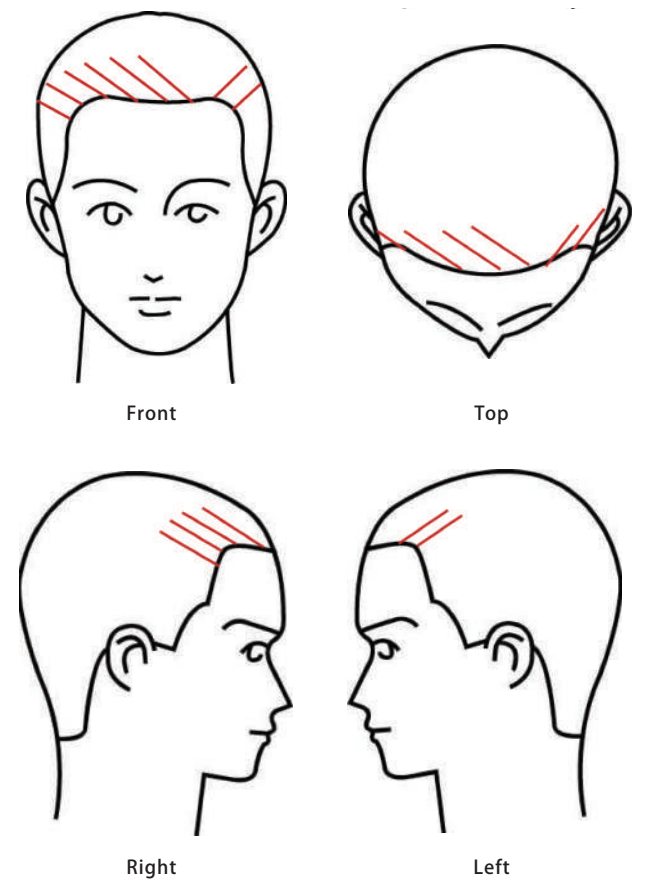
「D's カラー」は大人っぽい雰囲気を演出するダンディズム & セクシーを際立たせるカラーテクニックです。
細かい筋状の明るいハイライトを顔周り中心に入れ、毛束の動き・軽さをダンディーでセクシーな表現にすることができます。



カラー

Color

「D's カラー」は顔周りををぐるっと囲ったデザインを意図するカラーテクニックです。
発祥は海外セレブなど、お洒落に高感度な方々がトレンド元になっています。
ヘアスタイルに合うデザイン。そして、最小限のダメージで最大限の効果を演出することができます。
白毛の出て来た方に目立ち難くするカラーデザインにも有効で若い層から大人世代まで広く提案でき、簡単に雰囲気をお洒落に変身させてくれるテクニックになります。
“マンネリなヘアデザインからの脱却”や“高単価へのトッピングメニュー”としてお客様に提案してみましょう。



カラー剤については特に指定はありませんが、混ぜりムラがないようにしっかり攪拌しましょう。



5～7mmスライス・5mm間隔のウィーピングで毛束を取ります。アルミホイルかウィーピングペーパーなどに取り分けた毛束を置き、カラー剤を塗布します。



薬剤の注意として根元ギリギリに塗布することは避けます。少し地肌から離れた部分から薬剤を塗布します。



根元側から毛先側に向かって徐々に薬剤が多く塗布されるようなイメージです。根元側に沢山の薬剤を塗布しないように注意。



【左分けの場合】左目を起点として右側へ6ヶ所。左側へ2ヶ所。顔周りをぐるっと囲ったデザインに見えるように仕上げるカラーテクニックです。



デザインに合わせ、左パートラインの場合、起点から右にかけて6ヶ所・左に2ヶ所ハイライトを作ります。パートラインが逆の場合は工程を左右逆に行って下さい。

Styling

前下がりのスタイルを意識し、フォルムが大きくなり過ぎないように注意します。
ブローはパーマ感を活かし、全体にドライな印象にならないようにフォルムとフロントのアップバングを表現しましょう。
Aラインのフォルムを意識しながら、スタイリング剤でツヤと空気感を演出します。



1 フロントの立ち上がりを作るため、まず根元に熱を効かせ、柔らかなカールの土台を作ります。しっかりとAラインをイメージします。



2 サイドはトップからのフォルムに合わせ、フェイスラインに合わせるように収めます。



3 パーマの再現にはツヤ感のあるソフトムースやディティールの仕草にワックスを使用します。



4 フロントはさり気ないパートラインを意識し、全体的にウェーブ感を活かしていきます。コームよりハンドの方が自然な仕上がりになります。



5 ダレやすい部分にさっとスプレーを塗布し、スタイルがキープできるようにします。



6 最後にフロントの流れやフォルムを整え、アクセントを加えたら、フィニッシュです。



ワンポイント！

アフターカットも大切です。「Sゾーン」の最下部の毛をチェックカットすることで「Dゾーン」への馴染みが良くなります。パーマの掛かり具合を確認したら、仕上がりを想定し、質感のチェックカットも合わせて行います。



Item

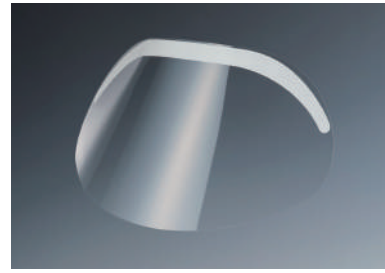
「D's」では使用するアイテムに特に指定はありません。サロンワークの延長で再現できるスタイルだからです。

現在はコロナ禍にあり、ウィルスからお客様と技術者を守る衛生管理については細心の注意を払いましょう。

環境に優しく（SDGsの考え方）、健康的なアイテムは「ニューノーマル」な時代には欠かせない選択となるでしょう。



今回のスタイルではカール感を崩さないように風よりも熱を重視します。コンテストでもお馴染みの「ドライ・ユー 1000」は集風器も6mm厚でポイントに熱を入れやすくなっています。



マスクに刈毛が付かないフェイスガードはコロナ対策の観点からもマスクと言えます。



使い慣れたシザーで構いませんが、正確なカットに必要な切れ味を重視します。また、質感の調整にはセニングシザーがとても有効です。



グローブは薬液から手指を保護するだけでなく、ウィルスからも守り、今後のサロンワークには欠かせません。



自然なカールを演出するため、薬液がスムーズに作用させる工夫が大切です。



カラーリングはベースの明度に応じ、ハイライトを入れます。



毛質に応じたカールを求めるためのチオ & カーリング ローションを選択しましょう。



スタイリングには柔らかなカールを自然に収める硬過ぎないムース & ワックスがおすすめです。フィニッシュには適度なホールド感のヘアスプレーを使用します。



D's

2021-2022 A/W

World hair in Japan

Dandyism & Sexy is NEW FORMAT



2021-2022 A/W

World hair in Japan

D's

2021-2022 A/W

World hair in Japan

D's

Dandyism
&
Sexy
is
NEW
FORMAL



D's

2021-2022 A/W

World hair in Japan 設定委員会

チーフ 白川文晴
委員 飯島克昌
仲山裕明
高田雅浩
小伏脇隆ノ介
山崎伸司

Make-up 志茂真希
根本愛子

Model Sandy
Rika Sakuma
Hiroki Yokota

